

第13期Aコース（南オーストラリア州）帰国レポート

令和7年1月23日（木）に日本を立ち、オーストラリア（南オーストラリア州）で留学生活を始めた第13期Aコース研修生19人が、約10か月間の留学生活を終え、令和7年11月30日（日）に日本へ帰国しました。

□ 特別プログラム第1日

令和7年11月27日（木）、ホストファミリーに送迎してもらい、アデレード市内の「South Australian Government Schools」の前に集合した後、今日から始まる特別プログラムの説明を受けました。その後昼食をとり、「University South Australia Mawson Lakes Campus」へ移動し、宇宙工学とSTEAM教育のワークショップを体験しました。その後プラネタリウム体験も行いました。内容は専門的で難しいところもありましたが、研修生は熱中して体験を行っていました。

また、キャンパスツアーでは、現地の大学生と直接対話する機会もありました。大学生活や学業について具体的な質問をすることで、実際の大学生活の様子や学業とプライベートのバランスの取り方など、リアルな情報を得ることができました。大学生たちは自身の経験を基に親身になってアドバイスをしてくれたため、研修生たちは海外の大学生活に対する具体的なイメージをもつことができました。



<お世話になったホストファミリーとの写真>



<ワークショップの様子>

□ 特別プログラム第2日

令和7年11月28日（金）、午前中は「Flinders University」を訪問しました。フリンダース大学は、最新の技術と教育を組み合わせ、実生活に生かすことを目指して多くの企業をキャンパス内に誘致し、社会に貢献する研究を行っている革新的な国立大学です。また、日本人初の宇宙飛行士である毛利衛氏が博士号を取得した大学としても知られています。

研修生たちは、フリンダース大学の2つのキャンパス（トンスリー・キャンパスとベッドフォード・パーク・キャンパス）を見学し、初めて訪れるキャンパス内を興味深く散策しました。最新の犬型ロボットの操作体験や開発環境の見学を行いました。その後キャンパスを移動して、「Leadership and International Business」をテーマにした特別

授業も受けました。この授業では、リーダーシップとは何か、良いリーダーとは何かについて考えました。授業を通じて、研修生たちは自分自身のリーダーシップのスタイルについて考える良い機会となりました。授業の後半ではビジネスの基礎を学び、グループワークでポスタープレゼンテーションを行いました。どのグループも短い時間の中で力作のポスターを作成していました。

研修生からは、「今までは日本の大学しか考えていなかったけれど、海外の大学にも興味が湧きました」といった声もありました。今回の訪問を通じて得た経験と知識は、今後の進路選択に大いに役立つことでしょう。



<キャンパスツアーの様子>



<フリンダース大学での集合写真>

また、夕食後にはオーストラリアで現在活躍している日本人の方によるプレゼンテーションも行われました。研修生たちは、実際に海外で働いている日本人の話聞くことで、自分のキャリアについて深く考える良い機会となりました。第2日目のプログラムを通じて、将来の目標や進路について新たな視点を得ることができました。



<海外で活躍されている方からキャリア形成についてお話を聞いている様子>

□ 特別プログラム第3日

最終日の朝、これまでの留學生活で学んだことや感じたことなどを、研修生一人一人が英語で発表しました。オーストラリアでの学びを通じて、多くの研修生が「将来、こういった職業に携わりたい」とはっきりとした目標を発表することができました。

3日間の特別プログラムの最後には、研修生の今後の活躍を後押しするメッセージがありました。

全ての留学プログラムを終え、南オーストラリア州に留学していた研修生たちは令和7年11月30日（日）に無事帰国しました。約10か月の留學生活の中で困難な場面に直面することもありましたが、様々な経験を通じて自分自身を大きく成長させることができました。

世界や日本の将来を担う人となるため、次のステージでの更なる成長を期待しています。



<英語で発表している様子>



<シドニー空港で集合写真>